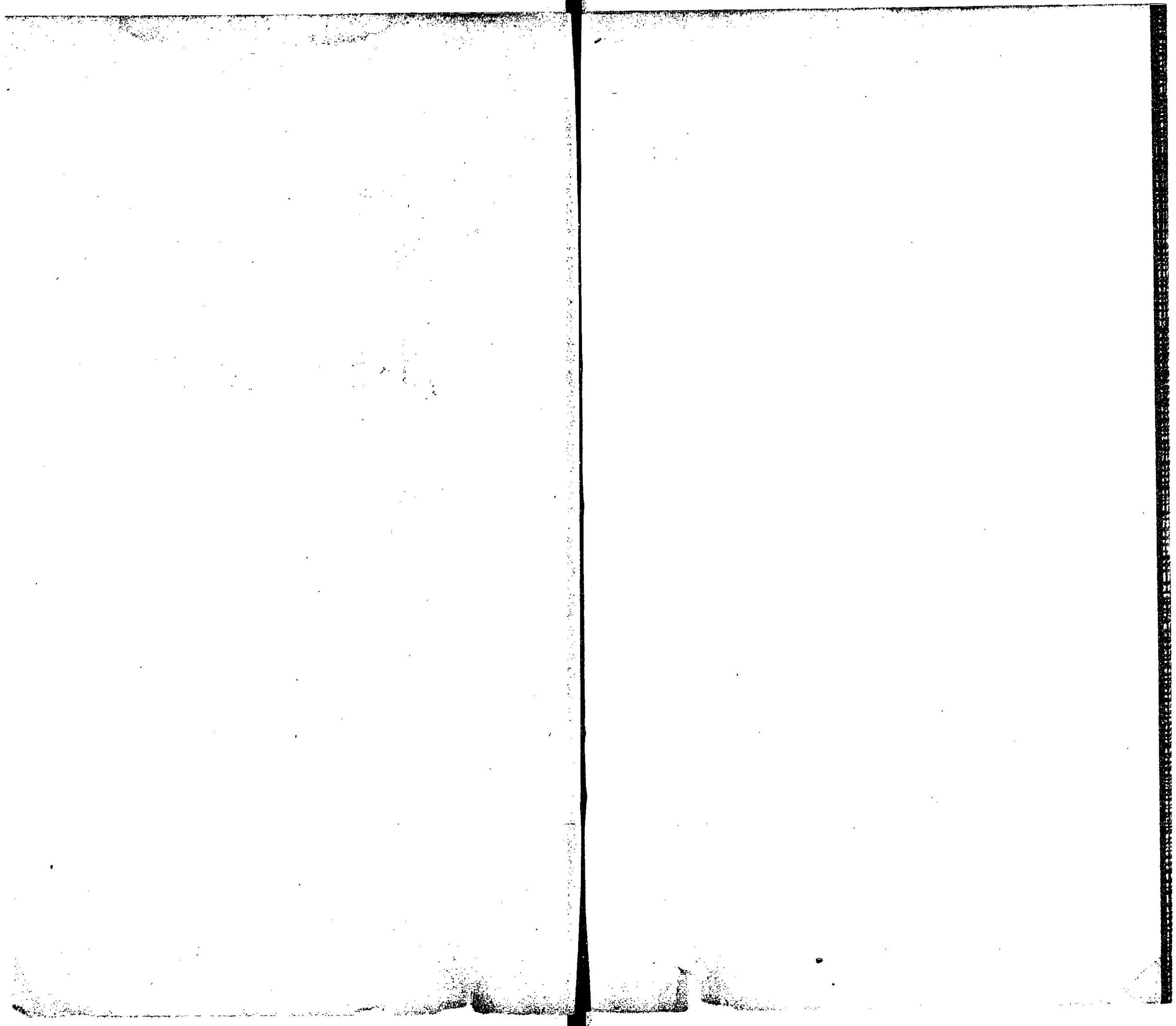


特公

80



265
109



法
中
傳
意
緒

博

國立中央圖書館

明
43. 6. 27
內交

己酉初夏

柳江題



山崎合戦

玉蘭作

天の作る孽は猶ほ違へべき也

自ら作る孽は違ふべからず

況や君を弑し天罰の

ぐは不報はてあかへべきぞ

さて丸明智日向守光秀は

主君信長父子を弑し

潜に新將軍と呼ばせつ

天が下知る時は今と

驕る状こそ不敵なれ

頃天正十年氷無月三日

亥の刻過の事なりしが

羽柴筑前守秀吉は

備中高松にて此凶報を聞き

大にたどろき給ひし

智勇勝れし明將なれば

故ら事實を打明けて

毛利と和睦を取結び

頓て尾ヶ崎に引返し

亡君恩顧の諸將等と

逆賊誅代の議を定め

全軍四萬の總大將に

推されて握る来配は

六十餘州を束つひに

切り靡かきむ權柄の

幸先なりと知られたり

左れば交戦は十三日

晴れの仕合は山崎と

敵にぬ斯と告知らし

十一日の真夜中に

尾ヶ崎をば打立て

程なくしてに神南備や

磐手の森の峰つゞき

神内の宿に陣取りて

明日の準備に忙はし

斯く香吉堀尾茂助を召給ひ

彼の天王山こそ大事なれ

汝竊かにやまがけて

疾く取れと仰せけり

さらば短き夏の夜を

長き軍議に明智方

その一方の大將たる

松田太郎左衛門尉正久は

鐵鉈の手を引連れて

敵に先んゞ天王山を奪んと

半分ばかりも攀手登り

一息吐て嗽下せば

赤地に白の抱柏

染めたる旗は中川勢

白地に黒の鏡蝶

池田父子の馬印も

間近く見いて事をかゝぬ

五文筒の強硝薬

浴せ掛て呉れんと

勇み喜ぶ時一もあれ

思も寄らぬ山の上より

百道の電光眼を射て

バラリ控と打ち響く

砲音諸共松田の軍兵

バタ〜と撃ち倒れる

さてはと愕き看上れば

羽柴方の旗はるー

樹の間にサツト靡きたり

松田苛つて聲荒らげ

疾く撃ち返せ兵共と

下知する間隙もあらばこそ

あはれ一發胸板を

打ち貫れ大居に伏す

羽柴の勢は之を見て

控と鬨をぞ揚げたりける

をりーも西の山際に

狭霧の晴れて東方に

キラ〜と指し昇る

旭日に耀く鎗太刀の

光まばゆき修羅場裡

金鼓の響音鳴神の

空に轟く砲聲に

敵も味方も勇み立ち

入亂れたる劇戦とて

血の雨の繁吹天に漲り

馬蹄の砂烟地に立ちて

追ひ追はれつ鬨ひつ

少時勝負は見えざりけり

さばれ傾く運の是非もなや

明智も聞ゆる勇將だれど

漸次々々に押立られ

遂に勝龍寺の城も落されければ

止なく残る數騎を隨て

伏見の方へ落行きしが

最もをぐらみ小栗栴の

竹の下露むすぶ間も

嵐に脆く消にけり

盛り短き桔梗の花も

哀果敢なく散らされて

浮世は桐となりひきこ

負數も重なる勲功の

耀く始めぞ勇けり

明治四十三年六月十日印刷
全 四十三号六月二十五日發行

發行兼
編輯人

大阪市東區和泉町二丁目一番地

有村彌四郎

印刷人

大阪市東區和泉町二丁目一番地

藤井護三郎
電話東四五五九番

印刷兼
發行所

大阪市東區和泉町二丁目一番地

藤井改進堂

長電話東二七〇番

265
109

